

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

《人社系》

●立命館大学国際関係研究科国際関係学専攻

「国際協力の即戦力となる人材育成プログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

これまで研究科で取組んできたインターンシップの充実を図るとともに、2009年度からは、「フィールド・リサーチ」を開講し、院生が紛争後地域に赴いて学ぶことのできる仕組づくりを行った。

これらの取り組みは、参加者にとっては、そのキャリア形成や研究推進に非常に有効であったといえるが、参加者が限定される傾向があった。

(苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

インターンシップ、フィールド・リサーチとも、海外において実習や研究を行う際の経済的な負担が非常に大きく、経済的に余裕のない院生が参加しづらかったこと、それぞれの院生のキャリア形成や研究計画に添って柔軟に実習・研究実施先を選択することが難しかったことなどが要因として考えられる。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

これらの課題に対応するため、プログラム終了後の2011年度より、「フィールド・リサーチ」を新展開（フィールドリサーチ初心者にも対応できるように丁寧な講義や実習を実施）するとともに、「フィールド型学修・研究推進制度」を新たに設けて、院生の海外における個別の研修・実習の支援を行った。この結果、2011年度から、フィールド・リサーチへの参加者が増加した。

インターンシップについては、量的な拡大だけに注目するのではなく、事前研修等を整備して、院生がそのキャリア形成・研究計画と、インターンシップ実習とのかかわりを十分に検討できるような支援を開始した。